

地域福祉計画策定のための
ボランティア団体アンケート調査結果

台東区 福祉部 福祉課

I 調査の目的

区民や事業者、関係機関、地域の様々な主体が相互に協力し、地域福祉を推進するための計画である「台東区地域福祉計画」を策定するため、区内NPO法人等ボランティア団体の皆様の意見を把握し、計画の参考とする。

II 調査の概要

(1) 調査対象数

台東区内NPO法人等ボランティア団体 29 団体

(2) 調査方法

インターネット形式及びFAXによる回答

(3) 調査期間

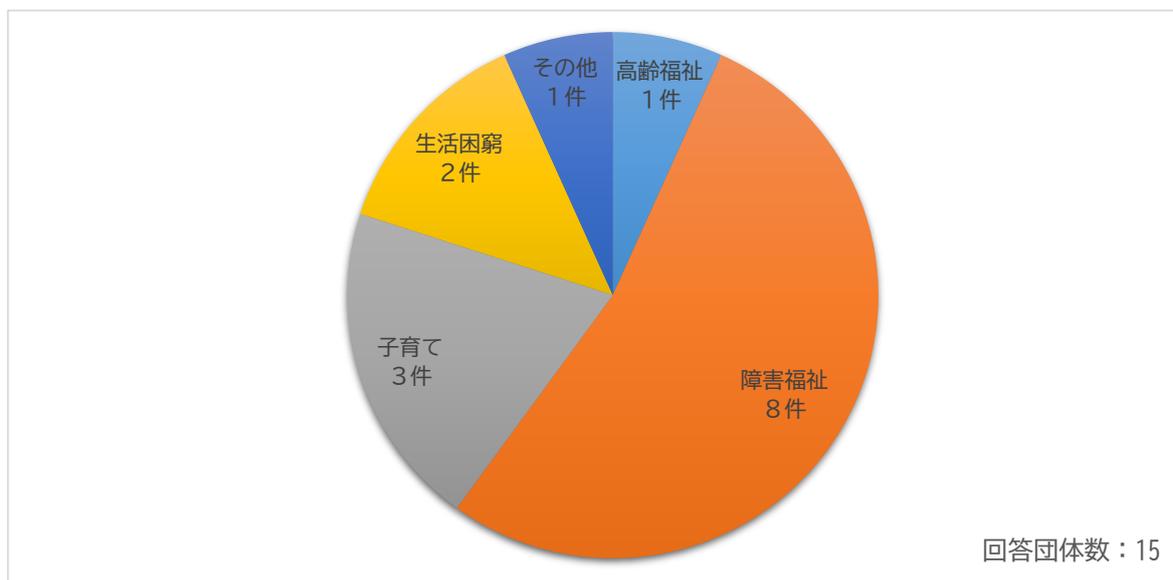
令和4年6月10日（金） から7月6日（水） まで

(4) 調査票回収数及び回収率

A:調査対象数	B:回収数	C:回収率 ($B/A \times 100$)
29 団体	15 団体	51.7%

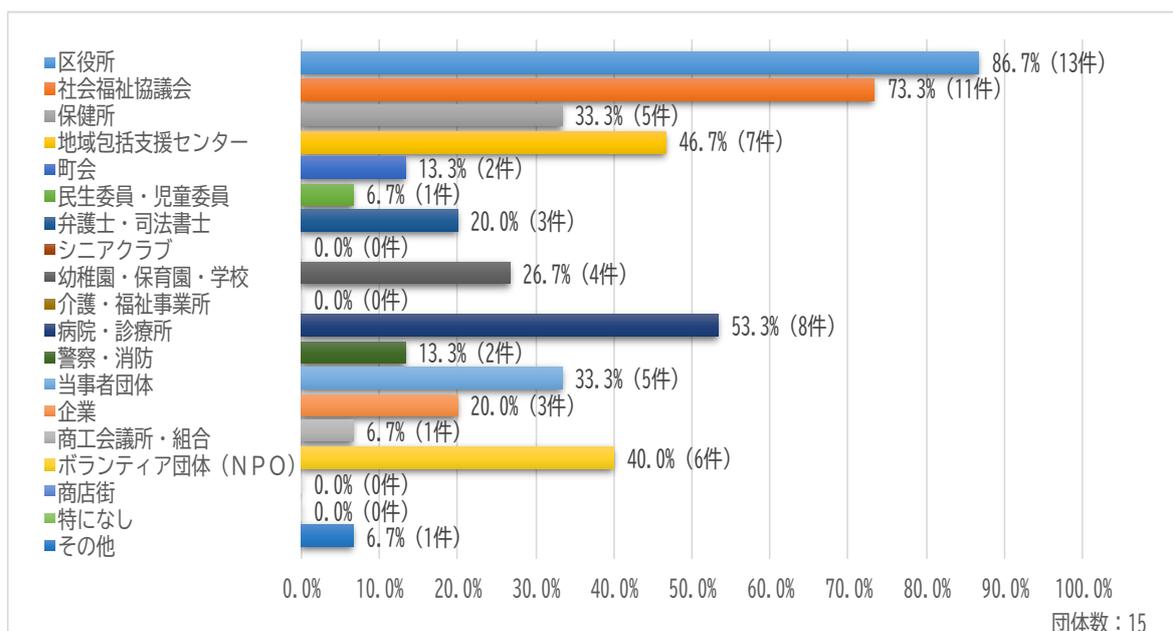
Ⅲ 調査結果

設問1：貴団体の主な活動分野はどれですか。



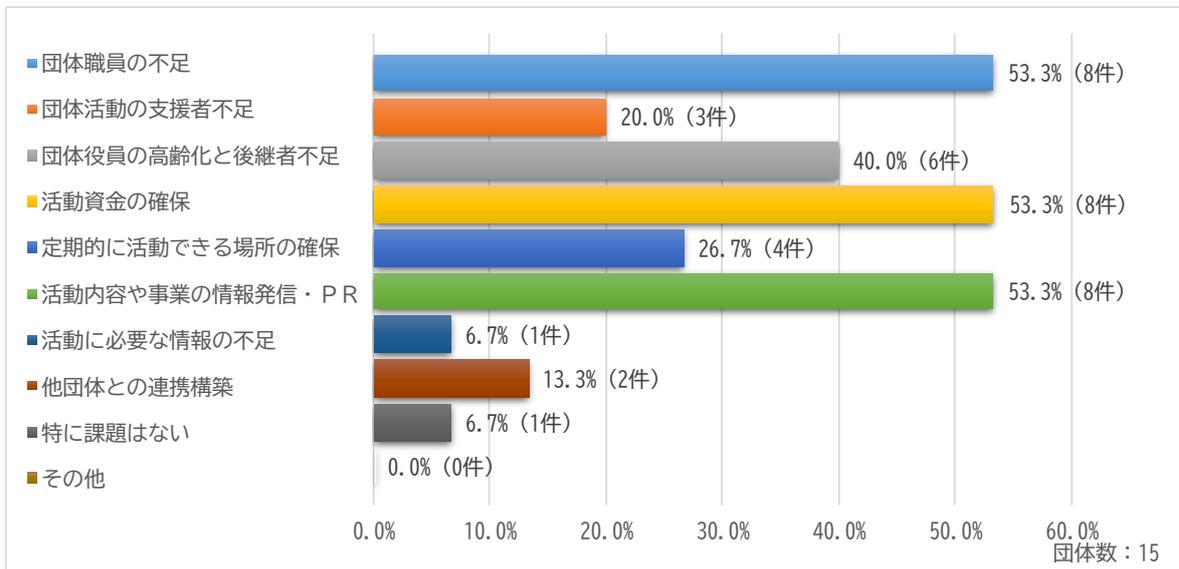
設問2：貴団体では活動を行う上で交流や連携、協力関係にある団体・機関はどこですか。（複数回答可）

▶「区役所」が最も多く、次いで「社会福祉協議会」「病院・診療所」「地域包括支援センター」となっています。



設問3：貴団体が活動を続けていく上で、どんな課題がありますか。(複数回答可)

▶ 半数以上の団体が「団体職員の不足」、「活動資金の確保」、「活動内容や事業の情報発信」を課題であると回答しています。



設問4：問3で挙げた課題解決のためには何が必要だと感じますか。(自由記述)

- ① 新会員募集、活動の周知と活動の拡大。
- ② 活動以外の時間と人員が必要と感じます。
- ③ 地域での日頃からの、関連機関等との連携の維持と強化。
- ④ 団体の情報発信・PRの場所提供。
- ⑤ 法人ホームページや機関誌、SNS等を活用し、活動内容に関する情報を発信しているが、さらに、多くの方に対する情報発信の場を関係機関とともにつくり、多くの方に活動や事業を知っていただく機会をつくること。
- ⑥ コロナ禍での利用者と催し物などで集える場所の確保→社協などで情報での情報提供（すでに利用）。
- ⑦ フードパントリーの食品を車で運んでくれるボランティアさん、フードパントリーの食品などを置いておく場所が必要。
- ⑧ 資金獲得に必要なスキルや情報の獲得。補助金助成金取得のためのノウハウ。

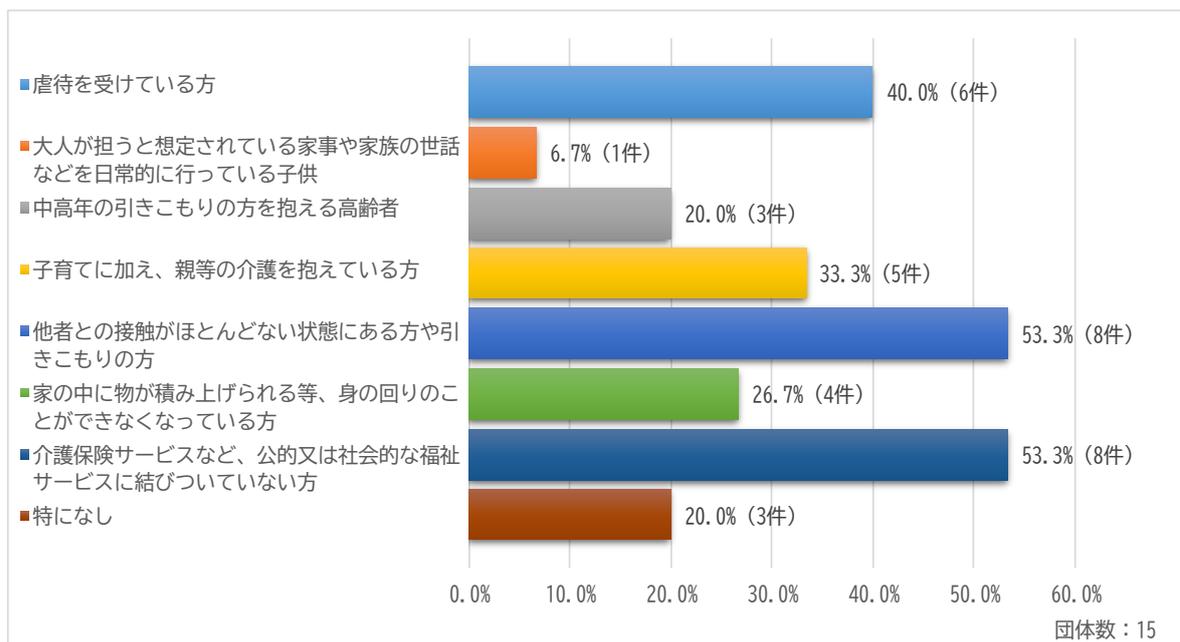
⑨ 全体的福祉も大きな岐路に来ています。その時代の流れもあります。課題解決も一般的な方法がありますがそれを越えた新しい形を見つけていきたいと思っています。

⑩ コロナ禍であり、病院・施設勤務の職員の団体であることもあり、なかなか他団体と関わること自体が難しいと考えています。唯一できるとしたら、オンラインサロンのなものになるかと思いますが、職業上高齢者が対象になることが多いため、SNSなどの媒体を使用したものだと難しいと考えています。

⑪ 会員を増やす。若手の育成。

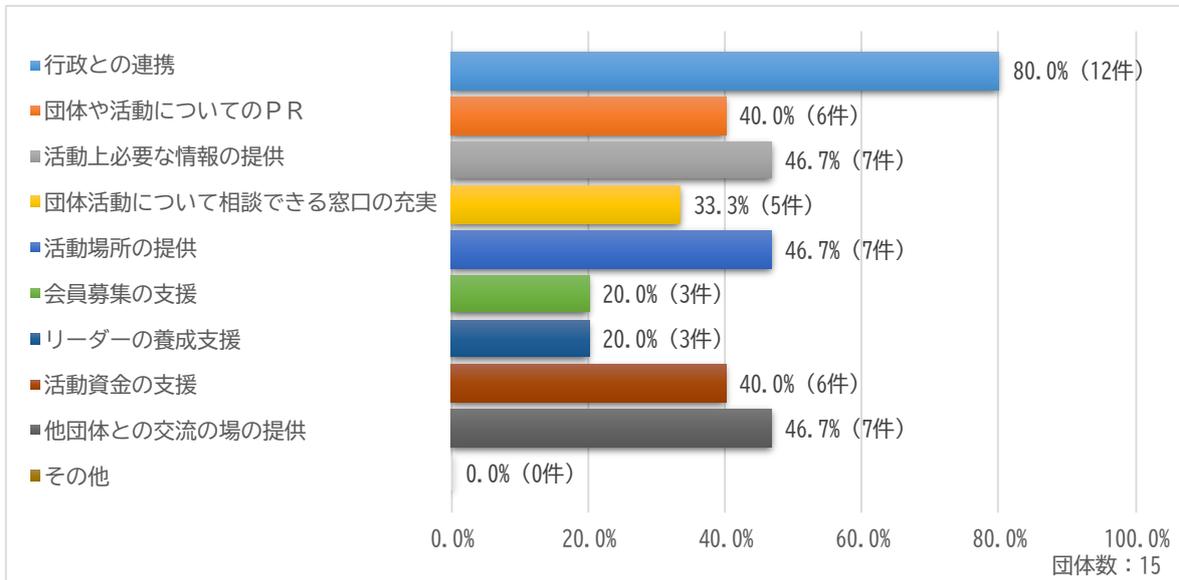
設問5：貴団体の活動を通じて、下記のような方々と関わりはありましたか。（複数回答可）

▶ 「他者との接触がほとんどない状態にある方や引きこもりの方」「介護保険サービスなど、公的又は社会的な福祉サービスに結びついていない方」が最も多くなっています。次いで「虐待を受けている方」が多くなっています。



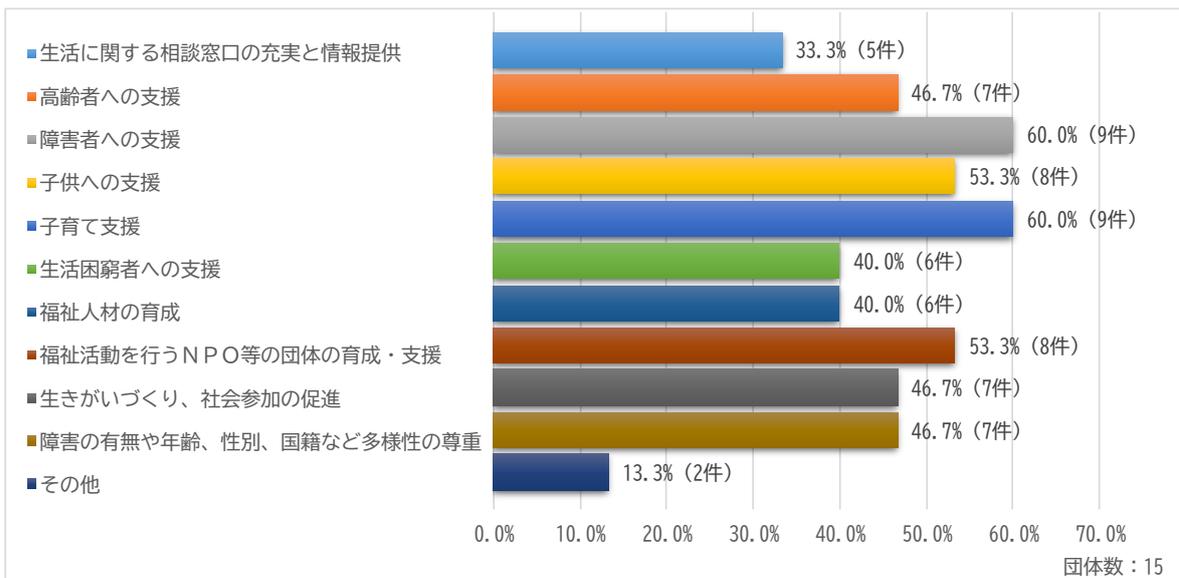
設問6：貴団体が活動していく上で、区に望むことはどのようなことですか。（複数回答可）

▶ 「行政との連携」が最も多くなっている。次いで「活動に必要な情報の提供」「活動場所の提供」「他団体との交流の場の提供」となっています。



設問7：安心して暮らせる台東区をつくるために、区はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答可）

▶ 「障害者への支援」「子育て支援」が最も多くなっています。次いで「子どもへの支援」「福祉活動を行うNPO等の団体の育成・支援」が多くなっています。



設問8：福祉施策について区へのご意見・ご要望がありましたら記入をお願いします。（自由記述）

① 福祉全般において 大きな転換期となっています。今までの既存の状態からでは 何も生まれませんと思います。机上の議論だけではなく、現場を把握しているのでしょうか。どれだけ動いているのでしょうか。福祉の枠を超えて、違うものと結びつけていく発想展開を期待しています。

② 高齢者、障害、子育てなどの分野を超えた、「安心して暮らせる台東区」を一体となって考えることができる場。

③ 出来ること、出来ないことがあるかと思いますが、傾聴して寄り添う姿勢を見せてほしい。

④ 区の福祉施策ももっとしっかりやってほしいと思うが、社会福祉協議会にもっと地域活動の支援をやってほしいです。社協の地域活動サポートセンターはいくら働きかけても全く変わらず、動いてくれません。他区では社協が中心となって地域福祉活動をサポートしてくれています。台東区は台東区社協に中間支援組織としての委託をしているのであれば、もっとしっかり指導をしてほしいと思います。

⑤ 子供中心の社会作りをして来なかった結果が現状です。今の時代こそ子供が安心して生まれる生活を整えることが未来を創っていきます。そして一人の障害を持たれた方のライフラインを作ることで、高齢者も含めて最期まで安心して暮らしていけるようになる。そのラインの中に町会や民生委員を含めて地域を繋げていく必要があります。多様性とは個々を受け入れるということで基本的人権の尊重です。

⑥ プロテクション的な行政主導型よりもエンパワーメント型の力の集積とつながりを強化できるような施策を考えてあるいは支援してほしいです。もう少し民間にデリゲートしてよいと思います。台東区は行政の縦割りが強すぎる印象があります。医師会などが2つずつあるのも弊害だと思います。この点においては、行政主導で各職能団体の代表はひとつずつにして3師会にし、さらに看護師や介護支援専門員と同等に扱える仕組みが必要だと思います。女性の健康支援施策が弱すぎます。ジェンダーギャップ解消に向けての施策は、ほとんど見えていません。ぜひ推進してほしいです。

⑦ ろう者ととともに学ぶ歩をモットーにしています。今回富士通より「エキマトペ」音声で文字にするボードが試しに6月15日から半年間上野駅1番線2番線間のホームの自動販売機上部に設置されていますが区もぜひ取り入れていただきインフォメーションに設置してほしい。ご協力よろしくお願い致します。

⑧ 台東区内の病院・施設で勤務をする理学療法士の団体です。コロナ禍で閉じこもりによる体力や筋力、認知機能の低下が著しく進行した高齢者が多くなっています。平日は勤務があるため土日などにはなってしまうますが、我々理学療法士が高齢者に対しての健康運動教室などができる機会があるとよいかと思いましたが（今まではボランティアフェスティバルやみんなの広場祭りで体力測定や相談会などをやっていました）。